

イングランド・プレミアリーグ正 GK の下部リーグでの出場経験

The Playing Experiences in the lower leagues of EPL Regular Goalkeepers

スポーツビジネス研究領域

5021A008-2 岡田 真和

研究指導教員: 平田 竹男 教授

1. 背景

サッカーのゴールキーパー(以下、GK)は、フィールドプレイヤー(以下、FP)のように体力の消耗や戦術変更での交代があまりなく、2 番手以降の選手は出場機会が限られている。また、GK は選手寿命が長く、経験が重要視されるため、若手 GK がチャンスを得るのは難しい。Drs Raffaele Poli et al.(2017)によると、欧州サッカー連盟に所属する 31 のトップディビジョンのクラブの GK について調査した結果、調査した全ての国で他の FP と比較して平均年齢が高く、特にイギリスとイタリアで顕著であったことが報告されている。

欧州 5 大リーグの 1 つであるイングランド・プレミアリーグ(以下、プレミア)は、2022 年 W 杯カタール大会の出場選手 832 人中 134 人がプレイしているように、世界各国からトップ選手が集まるリーグであり、自国選手同士の競争だけでなく、海外選手ともレギュラー争いをする厳しい環境にある。これは GK についても当てはまり、出場 32 カ国の GK 登録選手 99 人中 15 人がプレミアのクラブに登録されていた。このように、世界レベルで活躍するプレミアの GK はどこのアカデミーで育成され、プロとしてデビューし、選手としてのキャリアを重ねてきたのかを系統的に調査することは、世界で通用する GK の育成や限られた人数の中で育成をしなければならない難しさを克服する一助になると考える。

2. 目的

本研究は、プレミアの正 GK がプロデビューからプレミアのクラブに登録されるまでに、ローン移籍等による下部リーグにおけるステップアップの歩みとそれぞれのリーグでの出場試合数を調査し、出場機会が限られるポジションである GK の育成策を探ることを目的とする。また、所属したクラブのリーグディビジョンと出場試合数をもとにプレミア正 GK にいたるまでの試合経験の指数化を図り、異なるステップアップ過程を取る各選手の育成過程を比較出来るように試みる。

3. 研究方法

1) 文献調査

2017-18 シーズンから 2021-22 シーズンの 5 シーズンにプレミアのクラブに在籍していた正 GK の 42 名を対象とした。対象とした選手の①出身アカデミー、②プロデビューからプレミア正 GK になるまでに所属したクラブとリーグディビジョン、③シーズンごとの出場試合数、④移籍の方法、⑤3 年目までの試合数の 5 項目を調査した。⑤3 年目までの試合数では、18 歳未満の選

手の最大契約年数が 3 年となっており(FIFA, 2022)、多くの選手が 3 年契約で入団する(中島, 2021)と述べられていたため、3 年目までとした。

2) 出場機会指数(MOI)

1)の方法で各々の GK を比較検討することが難しいため、在籍したクラブのリーグのディビジョンをポイント化した数字(以下、DvPt)と出場試合数を元に出場機会指数「MOI(Match Opportunity Index)」を作成した。

まず、DvPt は、下部リーグに所属するほど下積みが長いことを示すために、1 部リーグが 1pt、2 部リーグが 2pt とディビジョンが下がる度に 1pt ずつ加算した。そして各年の試合出場数に Dvpt を乗じ、1 部リーグの正 GK になる前年までの各年の pt の総和を MOI とした。

4. 結果

1) 対象選手の概要

対象の選手は、出身アカデミーがイングランド内の選手が 21 人、イングランド外の選手が 21 人であった。

プレミアの正 GK であった選手は平均 17.9 歳でプロデビューし、25.2 歳までに 4 つのクラブを経て、プレミアの正 GK になっていた。イングランドのアカデミー出身選手は平均 18.0 歳からキャリアをスタートし、24.8 歳までに 5 つのクラブを経て、プレミアの正 GK になっていた。海外のアカデミー出身選手は平均 17.8 歳からキャリアをスタートし、25.6 歳までに 3 つのクラブを経て、プレミアの正 GK になっていた。そして、プレミアの正 GK になった選手において、プレミアへ移籍する直前のクラブは全員が欧州のリーグのクラブであった。

2) プロデビューから 3 年目までの試合数とプレミアの正 GK になるまでの年数

プロデビュー後 3 年目までの出場試合数とプレミアの正 GK になるまでの年数の間には、弱い相関があり($\gamma = -0.3$, 図 1)、プロデビューから 3 年目までに出場機会を得ることで、プレミアの正 GK になるまでの年数が短くなる傾向があった。

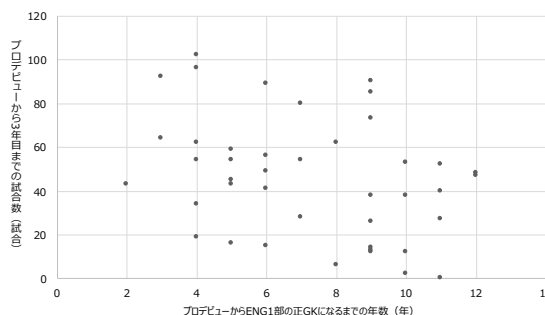


図 1. 3 年目までの試合数と正 GK になるまでの年数

3) 出身アカデミーの比較

プレミアで正 GK になるまでに 3.9 つのリーグを経験していた。イングランド国内のアカデミー出身選手は、平均 4.3 つのリーグを経てプレミアにステップアップし、いずれの選手も最初にプレミアのクラブに所属し、ローンによる移籍を主な手段としてイングランド 2 部から 7 部までを経験していた。2022 年 W 杯カタール大会のイングランド代表 GK3 人はいずれもローン移籍により下部リーグで出場機会を得ながらステップアップしていた。

ジョーダン・ピックフォードはプレミアのサンダーランドで 2011 年にプロデビューしたが、同年、5 部のダーリントンヘローン移籍、その後 5 から 4 部の 4 つのクラブヘローン移籍をした。途中 13-14 シーズン終了後にサンダーランドとの契約を 2018 年までに更新した。2016 年 1 月にサンダーランドで登録された。

ニック・ポープのプロデビューは 2011 年 3 部のチャールトンであった。2011 年 7 部のハロウ・バラにローン移籍、その後 1 年に 2 つのチームを経験した(いずれもローン移籍)。2016 年 7 月にプレミアに復帰したバーンリーへ 3 年契約で移籍した。1 年目は出場機会がなかったが、17 年 9 月に正 GK の負傷をきっかけに出場機会が増え、10 月には 2020 年 6 月までの長期契約を結んだ。

アーロン・ラムズデールは 3 部のシェフィールド・U で 2015 年にプロデビューし、2017 年 1 月プレミアのボーマンズに移籍するが、出場機会を求めて、4 部のチェスターフィールドヘローン移籍した。19 年にはボーマンズに戻って正 GK となった。

イングランド外のアカデミー出身選手は平均 3.5 つのリーグを経験し、各国 1 部リーグのみに在籍した選手は 9 人、下部リーグにも在籍した選手は 12 人であった。

4) MOI の結果と正 GK になるまでの試合数

プレミア正 GK になるまでに MOI 265、148 試合(いずれも中央値)を経験していた。プレミア移籍後、すぐ正 GK になった選手は 31 人、出場試合数の中央値 181 試合、MOI の中央値 258 であった。一方、移籍後サブ GK から正 GK に定着した選手は 11 人、出場試合数の中央値が 110 試合、MOI の中央値が 288 であった。

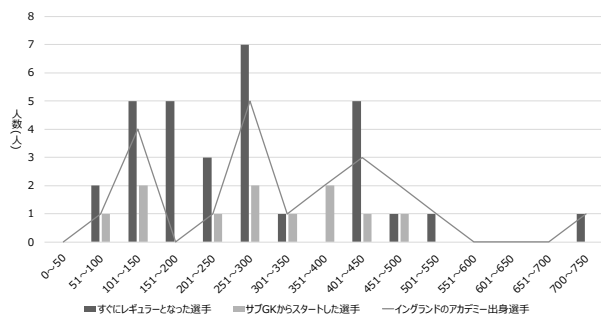


図 2. MOI の分布

MOI が 300pt 以下で、移籍直後に正 GK に定着した選手は 71%、移籍後サブ GK から正 GK に定着した選手は 55%となっていた。

イングランド国内のアカデミー出身 21 選手の MOI の

中央値は 288 で、MOI は 0 から 200、201 から 350、351 から 600 の 3 つの集団が見られた。

5. 考察

1) 下部リーグでの試合経験

イングランドのアカデミー出身選手はプロデビュー後に 3 部から 7 部のリーグへ移籍していた。出場機会を求めて下部リーグへ移籍し活躍することは、試合に出場し、実践を積み重ねるだけでなく、「欧州 5 大リーグへ移籍するためには知名度を高めることが大切」(長澤, 2019)という指摘のように、ステップアップに不可欠な知名度を上げる機会にもなっていたと推察される。また、「選手の競技力をより大きく強化するためにはできる限り若いうちによりレベルの高い環境での経験を積むことが有益である」(栗山, 2013)と述べられており、出場機会を求めて下部リーグへ移籍をすることがキャリアのファーストステップとして重要になっていると考えられる。

2) プロデビュー後から出場機会を得る重要性

プロデビューから 3 年目までに出場機会を得ることで、プレミアの正 GK になるまでの年数が短くなっていたことから、GK の育成にはリーグのディビジョンに関係なく、早期からプロリーグの中で経験を積み重ねることが欠かせない要素となると示唆される。また、平均 17.9 歳でプロデビューし、25 歳でプレミア正 GK になるまでに 150 試合近くを経験している。このようにプロでの試合経験を増やすための策を徹底することがプレミア GK の育成策の一つであると考えられる。

3) プレミアで正 GK となる選手とサブ GK の違い

プレミアに移籍した直後に正 GK になる選手はプレミアに移籍した直後にサブ GK になる選手よりも出場試合数が多く、下積み経験(MOI)が少なかった。この結果からプレミアに移籍後すぐに正 GK となる選手は下部リーグやイングランド以外の各国 1 部リーグで早期から多くの試合に出場し結果を出すことができた選手層だったと考えられる。

4) 研究の限界と今後の展望

本研究はプレミア正 GK になるまでの期間を対象としているため、GK のステップアップについてより精緻な情報を得るには、その後のキャリアやアンダー代表の結果を考慮した分析などを進める必要がある。

6. 結論

プレミアのクラブに GK 登録されるまでに、選手はプロデビュー直後からローン移籍によって下部リーグで 148 試合以上に出場し、MOI265 以上の経験積み、その間には、4~5 のクラブを経験していたことが分かった。

GK は出場機会が限られるポジションではあるが、出場機会を得るためにローン移籍制度を利用して、下部リーグで試合に出場し好成績を残すといった下積み経験が GK のステップアップの過程であり、プレミア正 GK のポジションの確保につながる策である。